

外国人による 地域の伝統祭礼の継承と地方創生

1. 背景・目的

伝統行事の担い手不足による継承問題

丹波篠山には、城下町の街並みや伝統祭礼など地域ならではの資源がある。一方、伝統行事の担い手不足が課題となっている。地域の祭礼において、担い手不足によって継承が危うい地域がある。継承が可能である丹波篠山市において、外部から担い手を集める方法として、大学との連携に加え、インバウンド客などの外国人を対象にできるのではないかと考えた。地域の歴史や文化、暮らしの魅力を伝えることも可能になり、地方創生にもつながると考えた。篠山春日神社秋祭保存会と連携して、外国人参加の試行プロジェクトを行った。

2. 活動内容

●篠山春日神社秋祭保存会との話し合い

- 外国人の観光客としての受け入れには否定的
→本学の留学生、日本人とセットならばいい
→言葉の壁だけでなく、祭礼に対する意識の壁への懸念

●本学の留学生に絞って参加者を募集

日本人学生と外国人学生をセットで各町に分属させる

●準備のときはできるだけ現地に行き参加

各町の方たちと交流し、祭礼への思いを理解



●春日神社秋祭 宵宮・本宮への参加

- 日時：2025年10月18日(土)・19日(日)
- 参加学生：日本人学生8名+留学生4名
- 参加町：上河原町、上立町、下二階町、呉服町、魚屋町
- 参加内容：宵宮＝鉾山や祭壇の飾付け
本宮＝鉾山巡行



3. 成果・課題

●事後評価

受け入れ町（地域）

- ・「今後もぜひ祭りに参加してほしい」といった肯定的な意見が多かった。
- ・日常会話レベルの日本語能力があれば、外国人のみでの参加も可能
- ・ある程度日本語を話すことができ、「体験」ではなく「手伝い」という意識の理解が必要である。
- ・祭礼を観光サービスとして提供できない。

参加留学生

- ・鉾山を引く作業は大変だったが、滅多に経験できない貴重な体験だった」という肯定的な感想が多かった。
- ・遠方からの参加であったため集合時間が早く、体力的に厳しい面があった。

言語の問題以上に、**祭りに対する意識や姿勢の共有**が重要であることを実感した。また、事前準備から地域の方々との関係性を築いたことで、祭礼当日は留学生と地域をつなぐ**架け橋**としての役割を果たした。

4. 今後の展望

参加後に地域代表者へ向けて実施したアンケートでは、若者の参加を歓迎する肯定的な意見が多く得られた。そこで、時間的余裕があり主体的に学ぶ姿勢を持つ大学生の参加が有効であると考え、大学のボランティア単位を付与する制度を提案する。この制度により、学生は地域文化の継承に関わる経験と学習成果を両立でき、地域にとっては継続的な担い手確保につながることを期待される。

AI翻訳機を利用した 丹波篠山市ツアー提案の試み

1. 背景・目的

丹波篠山と外国人観光客をつなぎ、地域の魅力を伝える。

丹波篠山には、城下町の街並みや食文化、伝統祭礼など、インバウンド観光に資する地域資源が豊富に存在する。一方で、外国語対応が可能で地域の魅力を伝えられる観光人材は限られており、その育成には時間と費用を要する。そこで本研究では、AI翻訳機を活用し、地域の人々が歴史や文化、暮らしの魅力を外国人観光客に伝える可能性を検討する。

2. 概要



丹波篠山市観光協会や地域の方々の協力を得るとともに実地調査を行い、実施コースを決定した。次に、ツアーで使用する観光地のガイド原稿を作成し、AI翻訳機に学習させ、現地でガイド練習を行った。

●留学生を対象にしたモニターツアーの実施

- 実施日：2025年11月3日
- 参加者：武庫川女子大学への交換留学生2名
- ガイド：大森ゼミ学生



●ガイドマッチングサイトでの試験販売

- 販売方法：「WOW U」にて2ヶ月間（2025年10～11月）掲載して販売
- 販売価格：一人あたり9350円（税込）
- 広報活動：サイト運営者と相談してサイト内記事やYoutubeにて紹介、英文フライヤーの作成・周知



広報用に作成した英文フライヤー



ガイドマッチングサイトの販売画面（一部）

3. ヒアリング調査

ツアーの販売を行ったものの集客には至らなかった。そこで、その要因を明らかにするため、ヒアリング調査を実施し、プロジェクトに対する評価や観光に関する意識について調査した。

実施期間：2025年12月～2026年1月

- 対象者：武庫川女子大学外国人教員 2名 株式会社NOTE社員 2名
- 武庫川女子大学交換留学生 2名 一般社団法人ロコノミ 職員 1名
- 大阪大学工学部留学生 2名 専門通訳士 1名
- 一般社団法人ウイズささやま職員 1名

形式：対面またはWEB会議システムを利用したオンラインヒアリング

ヒアリング調査の結果、丹波篠山の知名度の低さや立地情報の不足、ターゲット設定の不明確さ、ツアー内容や予約方法に関する具体的な情報の欠如、ならびに大学生ガイドの独自性が十分に伝わっていない点の4つの課題が明らかとなった。

4. 今後の展望

AI翻訳機を活用したガイドツアーは「面白い・興味深い」といった前向きな評価が得られたが課題もみられた。

地域の協力を得てガイドング内容を検討したことで、翻訳機越しであっても地域の思いや文化が伝わり、人の温度感を伴う案内の重要性が示唆された。このことから、**インバウンド客と地域をつなぐ補助的なコミュニケーションツール**としての可能性は大きいと考える。

観点	内容
コミュニケーション設計の強化	翻訳機と直接会話を使い分け、参加者の理解度に応じた調整が必要。
AI翻訳機の位置づけ	専門用語や長文には課題があり、補助的に簡潔な日本語で用いることが有効。
地域協力の効果	地域の協力により、人の思いや文化が伝わるガイドングが実現した。